[ミリスマ]

Mil Suma

No. 8
2016 JAN

WORLD MOOK

Cover Photo/Kesaharu Imai (WPP)
Cover Design/Taku Mizuno (BASE)

平成28年1月5日発行（通巻1096号）
ワールド・ムック1096

大特集
ベトナム戦争終結40年
NAM

TITLE: Mil Suma No.8
World Mook Series No.1096
Edited by KESAHARU IMAI
Publication Date: January 5, 2016

Copyright © 2016 by World Photo Press

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or used in any form or by any means—graphic, electronic, or mechanical, including photocopying or information storage and retrieval systems—without the written permission from the copyright holder.

ISBN: 978-4-8465-3096-9 C9456 ¥907E
Printed in Japan

Published by World Photo Press
3-39-2 Nakano
Nakano-ku
Tokyo 164-8551
Japan
Phone: +81(Japan)-3-5385-8111; Fax: +81(Japan)-3-5385-5614
Email: monomag@wpp.co.jp
URL: http://www.monomagazine.com

This book may be purchased from the publisher.

Contents

【大特集】VIETNAM WAR
ベトナム戦争終結40年
構成／編集部　文／M. Kelly 011

ベトナム戦争の記録遺産
ジャングルファティーグを10万着買った男
東京アメ横・中田商店のレジェンド、中田忠夫氏に聞く
文と構成／河村喜代子 031

Vietnam War Uniform & Personal Equipment Illustration by M. Kelly 038

Bitter Memories in Lost War 042

Cover, Helmet, Camouflage 046

NAM戦終結から40年
いま買えるベトナム戦争
伝説のジッポー 文／大田享明 044

いま買えるベトナム戦争
レジェンド・グッズ 文／M. Kelly 048

兵士自身が記録したベトナム戦争③
アメリカ陸軍LRP/RANGER
【長距離偵察】レンジャー 056

ジョージ・ピーターセンという男
軍モノ・コレクター王物語 第2回 088
インタビュー／伊藤浩子

ミリスマ・コラム 文と写真／織本知之 090

TASK FORCE WARLOCK
OPERATION ミリスマ・ミリタリーシミュレーション
CLERIC CALYVARY
【オペレーション・クレリック・カルヴァリィ】 101

COMBAT GUNS ～ボクが撃ってきた銃～
MAGPUL FMG/THOMPSON M1A1
Photo & Text Tomo Hasegawa 110

大人が本気で遊べるサバゲー大会
第4回ミリスマ杯 114

国内最大のリエナクトイベント
HEART ROCK2015リポート 118

小ネタ満載! ミリスマインフォメーション 126

ミリタリーイベント
「ミニミリ」福岡・博多で初開催! 130

福岡・中州でミリバー探訪記
「THE SHOOTING BAR NAKASU」 132

話題の猫柄迷彩ブランド「VARIOUS」 133

歴史を紐解く新ブランド
「クロノロジカルテーブル」の
CODE-01サーマル 134

話題作を一挙リポート!
東京マルイ2015年末
新製品カタログ Photo & Text by Takeo Ishii 136

所さんも絶賛! ウエスタンアームズ
世田谷ベースモデル第4弾!!
1056インターセプターシリーズ 141

上矢ゆいのなんでもミリ日記 154

2015年秋冬～来春はスパイがアツい!
スパイ映画特集 157

HEAT UP! 48時間耐久サバゲー
米国サバイバルゲーム事情 取材／Hiro Soga 172

米軍完全装備図鑑　特殊部隊が愛用するヘッドセット
取材／松原 隆 178

真野恵里菜 in BP T shirt 187

NBPM（ボーダーパトロール）
ミュージアムグッズ読者プレゼント 188

BORDER PATROL Frontera
一本の線を間に向かい合う国と国 Text/Mikako Burks 190

第7回フライトジャケットの研究「空母」 200

ミリモノがいっぱい、全部買える!　モノショップ 203

第4回KAMIKAZEに吹かれて 210

第8回英国ミリタリーウエアの研究 214

東京・中野「レイジーキャット」のお宝を探る
ミリモノナウ 202

リトルアーモリーポージングガイド 216

ミリバー探訪記「すゞの樹」in 銀座 文／高山宗東 218

マニアックな枢軸国モノを紹介
超軍装入門 文／トーマス鈴木 220

全国サバゲーフィールド&
シューティングレンジガイド 222

VIETNAM WAR
ベトナム戦争終結40年

ケサンのさらに北にあるヒッコリーヒルの作戦支援基地で、海兵隊員が木の上につくった見張り台に上がって警戒中。その下では第26海兵隊の第3大隊に所属するマキロイ少佐がミサを執り行っている。1967年7月31日

ベトナム戦争の記録遺産

ジャングルファティーグを10万着買った男 中田忠夫

東京アメ横・中田商店のレジェンド、中田忠夫氏に聞く

インタビューと文／河村喜代子　写真／油科康司（WPP）　水野 拓（Base）

「失敗から始まった」と、のっけから意表をつく言葉を発した人物は中田忠夫氏である。質問は「なぜ10万着も買ったのか」という、ごく当たり前のことを聞いたはずだったのだが。その真意が、これから明らかになる。

東京上野御徒町のガード下一帯に広がるアメ横は、太平洋戦争後に、バラックから始めた店や露店が集まって、商店街に発展した土地である。そのガード下の一画を占める中田商店を、世界のミリタリーサープラス界で知らない人はない。並んでいるのはアメリカ軍モノだけではない。世界のミリタリー用品を並べている。いや並ぶなどどいう平面的な状況にはなっていない。積み上がっているし、天井から吊してあるし、壁も棚もぎゅう詰めである。とにかくモノの密度がすごいことになっている。

冒頭の「失敗から始まった」という言葉が返ってきたジャングルファティーグにしても、買った数が10万着である。途方もない数である。このあとに、その一端を写真で紹介するが、それとくらべても10万という数字の大量さ加減が分かる。枚数で数えるよりも、計り売りしたくなる。ところが中田忠夫氏はこれを1枚、1枚、より分け選別したのである。なぜか？ 破れていたり、汚れがないかを調べるためでもあったが、一番の理由は「新品はダメ」だからだ。

アメリカ兵を指してジーアイ（GI）と呼ぶ。兵士は政府からの支給品（ガバメントイシュー）で、できあがっているからだろう。軍では一人の兵

ジャングルファティーグは士官も着用した。上は肩にアメリカ海軍のアドバイソリーグループのパッチが付き、エリには少佐のインシグニアがついている。

VIETNAM WAR
ベトナム戦争終結40年

これが大人の
サバイバルゲームだ!

ベトナム装備で遊べ!

1980年代、ベトナム戦争映画『プラトーン』『ハンバーガー・ヒル』などに感化され、装備を揃えてサバイバルゲームをしたい!と始まったチームのベトナム戦装備化計画。サバイバルゲームには不必要な装備を身に付け、当時の米軍、北ベトナム軍を再現して遊んでいる。ここではサバイバル&ヒストリカルゲームチーム・上海亭の活動のほんの一例をレポートする。

写真／上海亭　文／小魔王　取材協力／LAZY CAT

ベトナム戦争のシチュエーションサバイバルゲームの一齣。画像左上：米陸軍一般歩兵装備でのなりきり画像。通常のサバイバルゲームと違い撮影会をするのもシチュエーションゲームの醍醐味。ヘリコプターは合成。画像右：米海軍特殊部隊SEALS装備。特殊部隊を再現する為、顔にフェイスペイントを塗り、迷彩服（ERDL 通称リーフカムフラージュ）のシールズジャケット（LAZY CAT製のレプリカ）を着用。

ベトナム戦争ヒストリカルイベント、アホカリプス（1996年）でのチーム写真。米陸軍一般歩兵部隊での分隊を再現しており、所属師団を決め、小隊長（少尉）、分隊長（二等軍曹）、衛生兵（四等特技兵）など役割、階級を決めている。ヘリコプターは合成。

NARA

LRRP

LONG RANGE RECONNAISSANCE PATROL PHOTOS

長距離偵察パトロールフォトス

PART 3 OF 3: RANGER, 1969 – 1972

VIETNAM – In early 1969 the U.S. Army redesignated all LRP companies and detachments as lettered Ranger companies under the CARS, Combined Arms Regimental System. On February 1, 1969 the 75th Infantry Regiment (Ranger) was formed and all lettered companies were activated except Company D, which was activated when D/151st of the Indiana National Guard rotated back to the United States. D/151st was filling the role of ground reconnaissance for II Field Force. The Ranger Companies stayed in service until each of their parent units were withdrawn from Southeast Asia. The last Ranger Company to be incountry was Company H, assigned to the 1st Cavalry Division. They were inactivated on August 15, 1972 and with their inactivation came an end to LRRP/LRP/Ranger involvement in Vietnam.

The Ranger liniage that was started in Vietnam continued with the formation of the 1st and 2nd Ranger Battalions in 1974 and eventually forming the 75th Ranger Regiment in February 1986.

第3回（最終回）　レンジャー 1969-1972

ベトナム-1969年の早い段階でアメリカ陸軍は、戦闘兵科連隊制度CARSに基づき、LRP（長距離パトロール）のすべての中隊と分遣隊を文字名で呼ぶレンジャー中隊へと再編成した。1969年2月1日に、第75歩兵連隊（レンジャー）が編成されてD中隊をのぞくすべての文字名中隊が活性化された。その時外されていたD中隊は、第151インディアナ州軍D中隊が交代のために合衆国に戻った時に活性化された。同D中隊は、第2野戦軍の地上偵察隊の補充兵供給役になっていた。レンジャー部隊は自分たちの親部隊が東南アジアから引き上げるまで、常時、任務に就いていた。最後までベトナムにとどまることになったレンジャー部隊は、第101騎兵師団所属のH中隊である。部隊が非活性化されたのは1972年8月15日であり、彼らとともにベトナムにおけるLRRP/LRP/レンジャー部隊の任務もすべて終わりを迎えた。

ベトナムで始まった一連のレンジャー部隊は、1974年の第1と第2レンジャー大隊編成から最終的には、1986年2月の第75レンジャー連隊編成までつづいた。

ジェイ・ボーマン／JAY BORMAN　　LRRPPHOTOS.COM

全　長：490㎜（270㎜折畳時）
重　量：2090g
装弾数：17/19/33＋1発（グロックマガジン使用）
●ワンタッチで変形し９㎜弾33連発！　特殊部隊向け!?　な変形サブマシンガン!!　KSC社からマグプルFPGとしてガスブローバックガンが販売されている。

COMBAT GUNS

Photo & Text by Tomo Hasegawa

ボクが撃ってきた銃

銃は闘いの道具――。闘いの中でその真の実力と魅力を発揮する。
時代を超えても変わらず、いや、混沌の時代だからこそ、いっそう輝きを増すのだ。
これまでボクが撃ってきた数多の銃の中から、印象的な銃をピックアップ！

MAGPUL"FMG"

1ガンであることが悟られにくい。モデルは若きクリス コスタ氏。2ストックとグリップ、トリガーガードが見事に折り畳まれ、ワンタッチで変形する。3システム手帳!?　もしくは小型ノートPCか？ ダミーのスピーカーとアンテナを付加して擬態した事から、アメリカの銃通の間では“レディオガン”と呼ばれる。銃器デザイナーのユージンストーナー氏が主宰したアレス社がFMGコンセプトの元祖。4グロックの快調作動のシステムをそのまま使用できる。

大きめの筆箱サイズのボックスが、ワンタッチでサブマシンガンに変形!?

しかもストックでしっかり構えながら、９㎜弾のフルオート射撃が可能!?

パンツの尻ポケットに突っ込めるくらいのコンパクトさもさることながら、ガンである事を周囲に意識させることなく携帯でき、必要な時は素速く変形させて応戦できる。シークレットサービスや公安関係の警備に最適で、なにより変形武器としての特別な“匂い”が我々好き者を刺激する。

この銃の名は“FMG-９”。FMGとは“フォールディングマシンガン（折り畳み式マシンガン）”の頭文字を当てたもの。アメリカのマグプル社が2008年のショットショーで発表し、話題となった。

グロックのスライドと銃身……トッパーとを使い、レシーバー内にトリガーガードとグリップが見事に折り畳まれる設計。樹脂パーツを多用して軽量な点も含め優れたデザインだ。銃器のパフォーマンスを高めてくれる優れたインターフェースの開発など、マグプル社らしい凝ったデザインが魅力。

新しい時代を感じさせる１挺だ。

THOMPSON M1A1

“トンプソン サブマシンガン（別名「トミーガン」）”は最初に成功したサブマシンガンとして知られている。

トンプソン以前の機関銃は大型で、兵士が携行できるものではなかった。第一次世界大戦の最中から携帯しやすい自動式軽火器のニーズが高まり、それを受けて開発されたのが“トンプソン サブマシンガン”だった。小型で携行しやすい初めての機関銃として、それ以前のものと差別化する意味も込め、“サブマシンガン（SMG）”という言葉が初めて使われたとも言われている（“SMG”という呼び名は後に拳銃弾使用の機関銃の総称になった）。

発売がスタートした1920年前後はすでに大戦が終結していたため、軍用、警察など公安関係にも使われていたものの、主なマーケットは民間用。持ち前のパフォーマンスからギャング達が使用してその名が広く知れ渡ることに。さらに何度かの改良、開発を経て1942年に米軍に制式採用された。写真はオープンボルトに改良された“トンプソンM1A1”。戦場で携行しやすさから、ドラムマガジンは不採用になった。

現代も数多くのトンプソンが現存する。アメリカの警察公安関係では古い銃の扱い方を学ぶクラスもある。.45口径弾の連射でも扱いやすい回転速度、その堅牢性など、現代の銃開発に関連し学ぶところが大きい性能がある。

全　長：約813㎜
重　量：約4,800g
装弾数：20発、30発
（他に50発、100発タイプのドラムマガジンがあるが、写真のM1A1とM1には使用不可）

●アメリカ禁酒法時代のギャング、そして第二次世界大戦から朝鮮戦争、ベトナム戦まで米軍採用銃として、その存在を知らしめたトンプソンSMG。

COMBAT GUNS

Photo & Text by Tomo Hasegawa

東京マルイ 2015 年末新製品カタログ

〈参考〉株式会社 東京マルイ 〒120-0005 東京都足立区綾瀬4-16-16
☎03-3605-1113 www.tokyo-marui.co.jp
●Photo & Text by Takeo Ishii

今年＝2015年5月14日（木）～17日（日）の4日間にかけて開催された「第54回静岡ホビーショー」で電撃的に発表され、まさに全国、いや、全世界のトイガンファンやサバイバルゲーマーの度肝を抜いたのが、“史上初の電動フルオートショットガン”としていよいよ発売間近の「AA-12」だ。ホビーショー初日の昼頃には愛好家各位のブログやSNSはまさしくこの銃一色で埋め尽くされた感じとなり、その反響の大きさを物語った。

東京マルイはこの銃のモデルアップに3年前から取り組んでいたそうだが、その一切を外部には完璧に秘匿したまま、超極秘裏に設計・開発を進めてきたという。東京マルイには既に25年の歴史を誇る電動ガンシリーズがあるし、3発同時発射（&給弾）のエアーショットガンやガスショットガンも製品化しているのだから、“これらをミックスして出来上がったんでしょ？”という安直なイメージが一瞬よぎる。しかし事実はまったく異なっていた。

東京マルイ／AA-12の発射速度は実銃とほぼ同じ「約10ショット／秒」で、これはフルオートとしては“ドドドドッ！”というよりは“ドンドンドン！”と聞こえる、ややゆっくりしたリズムである。しかしながら発射されるBB弾の量としては「3発×10ショット＝30発」なのだから、これはHC（ハイサイクル）シリーズの25発／秒をも超えている。つまり給弾量やペースとしては未だかつてない「未知の領域」であり、“本当に苦労しました！”と、開発陣への取材では語ってくれた。スムーズな作動や給弾の要となるシリンダーノズルや給弾ノズルには最先端の素材、工法、表面処理が導入されている。

さらに、3発同時発射を可能にするためインナーバレルは3本。シリンダー＆ピストンもやはり3セット。スプリングもそれに応じて強くなり、メカBOXやモーターにもさらなる耐久性とトルクが必要になり、根本的な構造やレイアウトから見直さざるを得なかったのだという。当然スイッチへの負担も大きいため、東京マルイとしては初となる「FET回路」が搭載された。しかも「過去に世界中どの電動ガンにも搭載されたことのない超ハイスペックなFET」をオリジナルに設計開発した、というのだから気合の入れ方が物凄い。

実銃ではフルオートのみだが、東京マルイAA-12には実にキレの良いセミオート（3発同時発射）も追加されており、それを実現させたのもこのハイスペックFETの貢献によるものだ。

ほかにも東京マルイ初となる電動巻上げ式のドラムマガジン（※装弾数3,000発以上！）を始めとする別売オプションが多数用意されるなど、とにかく話題性にまったく事欠かぬモノスゴイ新製品なのは間違いない。

『エクスペンダブルズ』シリーズや『プレデターズ』など、近年話題の大作アクション映画でも大活躍し、あるいは良い意味で“バカっぽく豪快な”印象を強く残した銃だけに、まさしく“東京マルイズム”を体現した意欲作。

さあ、もうステージの用意は整った。業界が、ファンが、そして筆者も、いまや固唾を飲んでこの電動ショットガンの登場を待っている。

「驚き」をその両腕に抱く日は近い！

ELECTRIC AUTOMATIC SHOT GUN AA-12

《DATA》
全長：839mm（予定）
重量：4,200g（予定）
装弾数：90発（※3,000発ドラムマガジン／別売オプション）
パワーソース：8.4Vニッケル水素1,300mAhミニSバッテリー
価格未定

3組のバレル＆チェンバーそれぞれに独立した可変HOP-UPチェンバーを装備。しかもそれぞれを微調整でき、散弾パターンまでがコントロール可能となる。

電動ガン3挺分のパワーと機能を一つのボディに凝縮するため、従来とはまったく異なるレイアウトの新型メカBOXが開発され、業界史上最高性能のFET回路が搭載されている。

右はショーやイベントでの展示用に制作された透明ディスプレイモデル。もちろん非売品だ。

高級車のエンジン等に採用されているという特殊技術＝自己潤滑型アルマイト加工「カシマコート」が施されたシリンダーノズル。

銃本体に付属してくる箱型マガジン（右）は装弾数90発。別売オプションの電動巻き上げ式ドラムマガジン（左）はナント3,000発！まさしく「異次元の弾幕」が、サバゲの流れをも変える!?

実銃が希少なため“ホンモノから採寸”という方法が使えなかったというAA-12だが、限られた資料を最大限に駆使し細部から色味に至るまで、それこそネジ1つ1つを塗装するまでに徹底し“一番格好良く”モデルアップしたのだという。その出来栄えは自分の目で、手で、確かめて欲しい。

世界中で愛されるキング・オブ・スパイ“007”

6人のジェームズ・ボンドの軌跡

第1作『007／ドクター・ノオ』の日本公開から50年以上に渡って、シリーズの主人公“007”こと「ジェームズ・ボンド」役は、その時代時代に「最もセクシー」と称賛された俳優たちによって受け継がれてきた。ここでは華麗な活躍をみせた歴代ボンドをご紹介する。

初代 ショーン・コネリー SEAN CONNERY

栄えある初代ジェームズ・ボンドは「美女は眉間から直接男性ホルモンを噴きかけて堕とします」なんて風体の男臭さが魅力のショーン・コネリー。推察するに歴代ボンドは、その時代時代の“Handsome in the World”を映す鑑でもあったはず。つまり60年代前半の「モテ男」といえば、このS・コネリーの如く、鼻の位置等で確認しなければ、胸だか背中だか分からないほど体中体毛で覆い尽くされた「ベア感丸出し」の男性だったようだ。

JAMES BOND CATALOG (2015) Home Entertainment Publicity

【代表作】『007は2度死ぬ』
1967年／イギリス／原題：YOU ONLY LIVE TWICE／117分
監督：ルイス・ギルバート
原作：イアン・フレミング
出演：ショーン・コネリー、若林映子、浜美枝、丹波哲郎、ドナルド・プレザンス

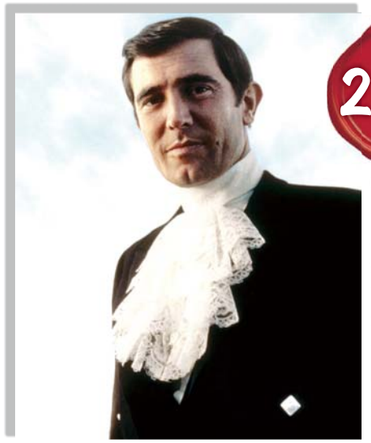
【解説】
シリーズ第5作目の舞台は日本ということで、秘密警察のボス、タイガー田中を故丹波哲郎さんが、田中の部下で普段は海女をしているというキッシー（サチコ）を浜美枝さんが演じている。日本の小島に日本人を装い潜入すべく、髪の色や形、目の色を変え、自慢の胸毛を毛抜きで間引くも、潜入先では正座をすれば顔を歪め、ケンブリッジ仕込みの日本語は片言、さらに顔の彫りはそのままの深さを保ち、なによりタッパがでかいので、結局「少しひょうきんなボンド」以外の何者でもなかったのが、個人的に本作のトロ部分。劇中で浜美枝さんが披露した純白のビキニ姿は、ビートたけしさんのギャグ「コマネチ」の姉妹ギャグ「ハマミエ！」の元ネタになったし、『オースティン・パワーズ』でマイク・マイヤーズが扮したDr. イーヴルのパロディ元は、本作版のエルンスト・スタヴロ・ブロフェルド（ドナルド・プレザンス）である。

【STORY】
アメリカとソビエトが核兵器・宇宙開発に激しい火花を散らす冷戦の最中、米宇宙船ジュピター16号が謎の飛行体に捕獲され、行方をくらます。米国はソ連の関与を疑い、疑われたソ連はこれに激しく反発。米ソの対立は核戦争も辞さない一触即発の事態に陥る。謎の飛行体が日本に降りたという情報を得たイギリス諜報機関は、香港の任務で命を落としたはずの凄腕諜報員、コードネーム007ことジェームズ・ボンドを送り込むが……。

【その他出演作】
『007/ドクター・ノオ』（1962）、『007/ロシアより愛をこめて』（1963）、『007/ゴールドフィンガー』（1964）、『007/サンダーボール作戦』（1965）、『007/ダイヤモンドは永遠に』（1971）、シリーズ外扱いの『007/サンダ～』のアメリカ版リメイク『ネバーセイ・ネバーアゲイン』（1983）

© MPTV/amanaimages

2代目 ジョージ・レーゼンビー GEORGE LAZENBY



© Allstar/amanaimages

60年代後半の「モテ男」界には「御上りさん」ブーム到来!? 2代目ボンドの座を射止めた豪州出身ジョージ・レーゼンビーは軍隊仕込みのアクションのキレが売りだった。

【出演作】『女王陛下の007』
1969年／イギリス／原題：ON HER MAJESTY'S SECRET SERVICE／130分
監督：ピーター・ハント　原作：イアン・フレミング
出演：ジョージ・レーゼンビー、ダイアナ・リグ、テリー・サヴァラス

JAMES BOND CATALOG (2015) Home Entertainment Publicity

【STORY&解説】
プロフェルドを追い2年。ボンドは遂に居場所を知る男――ユニオン・コルスの首領ドラコに辿り着く。だがドラコが提示した情報提供の交換条件が、娘テレサとの結婚で……。レーゼンビーは豪州からロンドンに移住後「中古車販売員」や「モデル」を経て「2代目ボンド」というスターダム街道を突き進む。その道中で所謂「天狗」になってしまい、スタッフや共演者の間に軋轢を生じ、結果本作のみの出演でボンドの座を明け渡すはめに。

3代目 ロジャー・ムーア ROGER MOORE

©Everett Collection/amanaimages

3代目ボンドのロジャー・ムーアは「品のいいお調子者」という大衆向けボンド像を確立。ファン・業界の双方から支持され、歴代ボンド最長在位の7作品に出演を果たした。

【代表作】
『007/黄金銃を持つ男』
1974年／イギリス／
原題：THE MAN WITH THE GOLDEN GUN／124分
監督：ガイ・ハミルトン
原作：イアン・フレミング
出演：ロジャー・ムーア、クリストファー・リー、モード・アダムス

【STORY&解説】
“007”と刻印された黄金の銃弾が英国諜報部のボンド宛に届く。検出された指紋から、凄腕の殺し屋スカラマンガの「ボンド殺害予告」だと判明するが……。狙った獲物は完全オリジナルの黄金銃と4.2㎜というマニアックな口径の黄金弾で仕留め、しかも乳首が3つある殺し屋スカラマンガと小人の従者ニック・ナックの登場でフリークス感がアップ。その黄金銃を見て「ゴールドライタン」を思い浮かべたあなたは、きっと僕と同世代。

【その他出演作】
『007/死ぬのは奴らだ』（1973）、『007/私を愛したスパイ』（1977）、『007/ムーンレイカー』（1979）、『007/ユア・アイズ・オンリー』（1981）、『007/オクトパシー』（1983）、『007/美しき獲物たち』（1985）

JAMES BOND CATALOG (2015) Home Entertainment Publicity

4代目 ティモシー・ダルトン TIMOTHY DALTON

© MPTV/amanaimages

JAMES BOND CATALOG (2015) Home Entertainment Publicity

濃いまつ毛から深い情が滲む様な「いい人」感が魅力の4代目ボンドはティモシー・ダルトン。だがそんな彼の「情」も「非情」なスパイの世界では無用の長物でしかなかった。

【STORY&解説】
盟友のCIA職員タイラーの結婚式に向かう最中、突如幕を上げた麻薬王サンチェスの逮捕劇。ボンドはDEAと協力して見事サンチェス逮捕に成功するが……。ボンドが任務そっちのけで、生きたままサメに手足を喰いちぎられた友の復讐に走る。若きベニチオ・デル・トロがサンチェスの鉄砲玉を好演。この年の暮れ、ゴルビーとパパ・ブッシュが会談して「冷戦終結」を宣言。それは007シリーズの上得意であるKGBの消滅を意味した。

【代表作】『007/消されたライセンス』
1989年／イギリス、アメリカ／
原題：LICENCE TO KILL／133分
監督：ジョン・グレン
脚本：マイケル・G・ウィルソン他
出演：ティモシー・ダルトン、キャリー・ローウェル、ロバート・ダヴィ

【その他出演作】
『007/リビング・デイ・ライツ』（1987）

5代目 ピアース・ブロスナン PIERCE BROSNAN

©Allstar/amanaimages

「醜男の気持ちなぞ微塵も解さん」という嫌みな……失礼、「気高さ」漂う5代目ボンドはピアース・ブロスナン。『ダイ・アナ～』では冒頭からぼこぼこぼこられちゃって♪

【代表作】『007/ダイ・アナザー・デイ』
2002年／イギリス、アメリカ／原題：DIE ANOTHER DAY／133分　監督：リー・タマホリ
原作：イアン・フレミング　出演：ピアース・ブロスナン、ハル・ベリー、トビー・スティーヴンス

JAMES BOND CATALOG (2015) Home Entertainment Publicity

【STORY&解説】
ボンドはダイヤ取引を装いムーン大佐を爆殺する為北朝鮮に潜入。ところが任務成功を目前にして007であることが発覚！　隙を見てボンドは逃走を図り、途中ムーン殺害には成功したものの、結局その父親のムーン将軍の部隊に捕まる……。冒頭から連行後のボンドの拷問シーンという演出が異色。Mは既にジュディ・デンチに替わっているが、近年クレイグ・ボンドにかけた程の愛情を、この哀れな前任ボンドにはかけなかった気がする。

【その他出演作】
『007/ゴールデンアイ』（1995）、『007/トゥモロー・ネバー・ダイ』（1997）、『007/ワールド・イズ・ノット・イナフ』（1999）

BORDER PATROL
Frontera
1本の線を間に向かい合う国と国。

文／未華子バークス
Text/Mikako Burks
写真／U.S.Costoms and Border Protection

© Luis Marden/National Geographic Creative/Corbis/amanaimages

国境は本質的に実線ではあり得ない。
時に、動いたり消えたり復活することがあるのが、その証拠だ。
架空の線であるはずの国境は限りなく透明になることも、
あるいは逆に、限りなくリアルで、アクティブな線になる。
今という時代、もっとも激しく対峙しているのは
アメリカとメキシコの間に引かれている2000マイルの国境線である。

フロンテラ地帯で交錯する行動エネルギー。
牧歌的だった時代のボーダーパトロールから
戦場並みの危険地帯と化した現代のボーダーパトロールの現場を見る。

日本の25倍の国土を持つアメリカ。それだけに、国境の長さも半端ではない。南側のアメリカ＝メキシコ国境は、北海道から沖縄までの距離にほぼ等しい2000マイル（3140km）を有するダイナミックさだ。

この長い国境線では、海と河川、そして山と砂漠の、あらゆる自然環境が展開し、合法的に年間３億人以上の人々が往来する。加えて、2013年の統計によると、非合法入国による逮捕者数は42万人。ピーク時の1986年の170万人近い数と比較するとおよそ４分の１に減少しているものの、世界でもっとも忙しい国境であることは間違いなさそうだ。

そんな国境地帯を守るのがUnited States Border Patrol、国境警備隊である。現在２万人以上の隊員を抱え、その大半がメキシコ国境で任務に当たっている。

国境警備の祖、テキサス・レンジャーズ

国境警備隊の設立は1924年だが、非公式ながらも国境警備自体はそれよりも100年以上前から開始されていた。アメリカ＝メキシコ両国の合意で、国境が現在の位置に制定された1848年のグアダルーペ・イダルゴ条約と1853年のガズデン購入よりもさらに前のことだ。

19世紀初頭のテキサス＝メキシコ国境地帯には300世帯近くが移住していたが、彼らを保護する軍隊などは存在していなかった。そこで、「テキサスの父」の別名を持つ、スティーブン・オースティンが1823年に、民兵に呼びかけて 非公式な警備隊「テキサス・レンジャーズ」を結成したのだった。

ちなみに、テキサスはアメリカの一州になる前は、メキシコから独立し、1845年にアメリカに併合されるまでの９年間「テキサス共和国」として存在していた。それゆえ、独立意識の高い土地柄だ。自分たちのことは自分たちで守る――レンジャーたちの根幹にはそのメンタリティーが備わっている。

テキサス・レンジャーズはインディアンの襲撃や国境警備も含む、いわば総合的な警察機能を担っていた気骨のある者たちの集まりだ。数々の映画やテレビドラマでもお馴染みだし、メジャーリーグのチーム名になっていることからも、テキサス・レンジャーズが今もテキサス人にとっての誇りであることがよく分かる。

その後、テキサス・レンジャーズはテキサス共和国の州法により公安局の傘下に置かれた。アメリカ合衆国への編入後はその時々の政治的背景に左右されたものの、テキサス・レンジャーズは今も健在だ。

しかし、国境警備という設立当初の任務は以降の時代、今では名誉職的な色合いが濃い機関となっている。そして、テキサスのみならず、多くのアメリカ国民にとっての敬意の的であることは間違いない。

移民法と国境警備隊

国境警備を語るときに、切っても切り離せないのが、移民との関係だ。

テキサス共和国がアメリカ合衆国に編入された19世紀半ばは、南北戦争や奴隷解放宣言など、アメリカの激動期だった。議会で移民についての論議が交わされ始めたのもこの時期だった。

1860年の黒人奴隷制度廃止から20年経ち、安価な労働力として中国からの労働者、「苦力（クーリー）」がどっとアメリカに入国してきた。自国の労働者を保護するために、中国系移民排斥を目的とした、初の移民法、「1882年移民法」の発足にはこうした背景があった。これを皮切りに、現在まで、アメリカではさまざまな移民法が制定されてきた。移民法は、その時々の社会問題を反映した対処法であり、それがすなわち国境警備の歴史として連動するかたちになっている。

その後も、1920年代の禁酒法や、第一次世界大戦が契機となって、密輸や不法移民を規制する法案が可決されたが、皮肉なことに不法移民の数は増える一方であった。移民法だけではどうにもならない、と悟ったのだろう。1924年になりようやく、アメリカ議会で国境警備隊の設立が承認されたのだった。

公式な国境警備隊として

最初の国境警備隊駐屯地は、1924年６月にミシガン州デトロイトに開設された。カナダから密輸されるアルコール類の規制、摘発を念頭に置いたものだ。翌月、テキサス＝メキシコ国境線のちょうど中間地点であるエルパソにも駐屯地が置かれた。当時の隊員数は450人。その多くはこの地域を熟知していた元テキサス・レンジャーズのメンバーだった。テキサス・レンジャーズ時代と同様に、馬は自前で調達するのが原則で、バッジ、リボルバー銃と年俸＄1680に加えて、馬の干し草も与えられたという、牧歌的なエピソードが残っている。しかし、その任務内容は決して牧歌的ではなく、1904～2013年の間に121名が殉死した。これは、アメリカの警察・警備機関の中ではもっとも多い数である。

第二次大戦の影響によるヨーロッパからの難民や移民、メキシコからの農業労働者が増えた1940年には、隊員数は1500人に増員され、管轄も司法省へと移管された。60年代のキューバ危機によるキューバ系移民への対処でも、国境警備隊は忙殺されたが、何と言っても一番の転換期は2001年に起きた9.11の同時多発テロ事件である。

21世紀の国境警備

このテロ事件を機に国土安全保障省（Department of Homeland Security、略称DHS）が新しく誕生し、連邦政府各省庁の大々的な再編成が行なわれた。国境警備隊はDHSの中の、税関および国境警備局（The U.S. Customs and Border Protection Agency、略称CBP）の一部となった。

もはや、不法移民と密輸のみならず、テロ攻撃も念頭に置いた新しい国境警備の時代に突入した。

2003年には2000人だった隊員は、現在２万2000人へと11倍に増員した。ニューメキシコ州にある養成校での13週間のプログラムではスペイン語も必修科目で、隊員の多くは南側国境地帯に配属される現状は、やはり南側からの不法入国がメインであることの如実な現われだ。

もうひとつ、特筆すべきは2006年のブッシュ政権下では、南側国境にフェンスを設置する法案が可決されたことだ。以来、１マイル（1.6km）あたり300～700万ドル掛かると言われる高額なフェンスが徐々に国境地帯を物理的に分断している。

ところで、意外にもテキサス・レンジャーズ設立当初に不法入国者として捕まったのは、中国からの移民だったという。「歴史は繰り返す」と言われるが、現在南側からの不法入国者には中国人の姿も珍しくない。とは言え、やはり大半はメキシコと中南米諸国からで、メキシコやコロンビアなど麻薬大国の国々からは就労目的 だけでなく、麻薬密輸を企てる者も多数いる。麻薬カルテルが国境を跨いで掘ったスーパートンネルの存在は日本のニュースでも度々取り上げられる。アリゾナ州だけでも50本近くのトンネルが摘発されていて、南部国境地帯では決して特異な出来事ではないのだ。

フェンス建築当時は、年間12万人だった不法入国者逮捕件数が、昨年は10分の１に激減したという統計に胸を張る国境警備隊だが、安堵できる状況とは言い難い。

フェンスと監視カメラ、パトロールする隊員のジープが200メートルおきにあっても、隙を見ては、国境を越える者はいて、そのやり口は以前よりも巧妙かつ凶暴になってきているそうだ。あわよくば国境を越えても灼熱の砂漠地帯で命を落とす者もいると言う。

現在、１万台以上のジープやトラック、200頭以上の馬、そして空からはビーチクラフト・キング、スーパーキングを始めとした飛行機やヘリ、そして水上ではシーハンターやミッドナイトエクスプレスらのボートを駆使して、徹底的な警備を目指している。

すでに創立91年目を迎えた国境警備隊は、今後どのような道を歩むのだろうか。皮肉なことだが、陸空海から国境の警備を固めても、不法入国者たちとの、いたちごっこが終わる気配は当分見えてこない。

Editor&Publisher
今井今朝春
Kesaharu Imai

Cover Design
井上健太郎(ベイス)
Kentaro Inoue(Base)

Design
水野　拓(ベイス)
Taku Mizuno(Base)
井上健太郎(ベイス)
Kentaro Inoue(Base)
杉本利菜(WPPデザイン部)
Lina Sugimoto(WPP Design Section)

ワールドムック編集部
World Mook　Editorial Dept.
浦山真由美
Mayumi Urayama
千葉 祐司
Yushi Chiba

Editor in Chief (COMBAT MAGAZINE)
服部夏生
Natsuo Hattori
Editor
梅木雅之
Masayuki Umeki

Contributed Editor
上矢　ゆい
Yui Kamiya

松浦　豪
Tsuyoshi Matsuura
河村喜代子
Kiyoko Kawamura

Illustrator
長谷川元太郎
Mototaro Hasegawa

Staff Photographers
熊谷義久
Yoshihisa Kumagai
油科康司
Yasuji Yushina
鶴田智昭
Tomoaki Tsuruda
青木健格
Takenori Aoki
宮坂政邦
Masakuni Miyasaka

Advertising Director
鈴木敏弥
Toshiya Suzuki
Advertising Staff
上田秀一
Shuichi Kanda
千葉 祐司
Yushi Chiba
福田将義
Masayoshi Fukuda
粕谷笑美子
Emiko Kasuya
片岡奈穂子
Nahoko Kataoka

Production Director
小川俊介
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager
笹川裕史
Hiroshi Sasagawa

Print
Dai Nippon Printing Co., Ltd.
DTP
Base

Correspondents,Washington,D.C.Bureau
(Pictorial Press International)
Norman T.Hatch
Mikako Burks

次号もミリ好きを唸らせる、
ミリ好きのための企画が盛りだくさん!

NEXT ISSUE 次号予告

名画に学ぶ、これが本当の戦いだ！
戦争映画大特集

- ●アフガン戦線の特殊部隊
- ●中田商店のミルスペック・モノ最前線
- ●アルファインダストリーのいま！
- ●全国サバイバルゲーム&シューティングレンジガイド

and more!!

PHOTO/TOMOYUKI ORIMOTO

Don't miss it!

MIL SUMA [ミリスマ]

2016 MAR No. 9

2016年2月上旬
発売予定

WORLD MOOK
ワールド・ムック1096(通巻1096号)
平成28年1月5日発行

MIL SUMA [ミリスマ] 2016 JAN No. 8

編集・発行人●今井今朝春
発行所●株式会社ワールドフォトプレス
〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2
TEL:03(5385)8111[編集部]
03(5385)5701[販売部]
03(5385)5658[広告営業部]
FAX:03(5385)5614[編集部]
03(5385)5703[販売部]
03(5385)5614[広告営業部]
印刷所●大日本印刷株式会社

© WORLD PHOTO PRESS 2016
造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がございましたら販売部あてにお送りください。送料弊社負担にてお取り換えいたします。本誌掲載記事の無断転載、複製、転写を禁じます。
弊社出版物のお申し込みはインターネットをご利用いただけます。http://www.monomagazine.com
●本誌に掲載されている店舗と商品情報は平成27年11月16日現在の調べによるものです。本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

ワールドフォトプレス ホームページ　http://www.monomagazine.com